

2022 年度日本農業経済学会第 1 回幹事会 議事録

開催日時:2022 年 6 月 11 日(土)10:00~11:35

会 場:ZOOM リモート開催

出席：浅見会長，茂野総務担当副会長，矢部国際担当副会長，伊藤企画担当副会長，齋藤編集担当副会長，鈴木会長補佐常務理事，小野総務担当常務理事，秋山財務担当常務理事，岡司財務(引継)担当常務理事，八木情報担当常務理事，東山企画担当常務理事，作山和文誌編集担当常務理事，中谷英文誌担当常務理事，佐々木国際担当常務理事，加治佐開催校担当常務理事

オブザーバー：諏訪(事務局)

欠席：河野学会賞・国内学術交流担当常務理事

開会ならびに議事進行確認

1. 会長挨拶

国際大会等負担のかかる業務が多い、副会長、常務理事の力を借りて円滑に運営したい

2. 幹事会メンバー及び事務局担当者の紹介(総務)

各人から一言挨拶あり

3. 2022 年度の学会運営スケジュールについて(総務)【報告】 資料 3

次期大会 3. 18-19

- 1) 9 月 1 日 次期大会概要 HP 掲載 (例年通り)
- 2) 10 月下旬 大会のお知らせ (シンポ概要、個別報告、各種企画等) 郵送及び HP 掲載
- 3) 11 月中旬 個別報告詳細 HP 掲載
- 4) 12 月上旬 個別報告申し込み掲載
- 5) 2 月下旬 個別報告要旨、シンポ予稿締切

※2023 年度は国際大会のため若干前倒しになる可能性あり。

常務理事会

- 1) 7 月 24 日(日)15 時
- 2) 12 月 17 日(土)13 時

第 2 回理事会

3 月 11 日前後

大会総会

3 月 20~23 日 メール審議

3 月 22 日(16-17 時)or23 日(10-11 時) 総会質問対応

- ・総会が変則的になる点は、今回意見を聴取し、次回常務理事会で承認予定

特段意見なし

4. 2022 年度青山学院大学大会について

4.0. 2021 年度龍谷大学大会報告(総務) 【報告】 →常務理事会にて報告

資料は常務理事会までに淡路先生より提出

4.1. 大会の持ち方について(企画) 【報告・審議】 資料 4-1

2023 年大会：企画委員会立ち上げ、構成案提示、会長補佐常務理事もメンバーに

次回常務理事会で氏名を提示した上で承認

企画担当の追加（23、24 年大会は負担大、各大会について単年度で企画担当を 1 名増員）

2024 年は 100 周年記念東北大学大会

2025 年大会は 23 年 3 月（可能なら 1～2 月）に決定予定

(鈴木) 前期はオンライン小委員会が設置されていた、今期での取り扱い如何

(伊藤) その必要は無いと思うが次回常務理事会までに決定する

(東山) 企画担当常務理事追加について

(伊藤) 手続きは正副長会で了承済み

(鈴木) 次回常務理事会で審議・承認

(伊藤) 24 年度大会についても、23 年 5 月頃から動きたい

(鈴木) 動いて構わない、7 月常務理事会は事後承認で可

審議 企画担当常務理事増員（任期 1 年、22 年度 1 名、23 年度 1 名）

企画委員会メンバーに英文誌担当常務理事、オブザーバーに鈴木会長補佐常務理事（委員会にはオブザーバーのうち最低 1 名参加）

→いずれも承認

4.2. 青山学院大学大会の準備状況(大会開催校) 【報告・審議】 資料 4-2

(伊藤) アジア農経は原則対面での実施

状況によってはハイブリッド、状況悪化の場合オンライン

日本農経は、アジア農経に組み込んで実施

(加治佐) アジア農経 4,6 月に実行委員会を実施、大会テーマ等を決定

銀行口座開設（理事会承認済）

大会運営のバイリンガルグループと契約締結

協賛委員（中嶋委員長）による協賛活動開始

今後の予定の確認

報告のスケジュールは例年の日本農経のスケジュール感なので報告者に混乱は生じないと推察

受付期間、HP 掲載期間はアジア農経に倣い長くとった

(齋藤) 日本農経のフルペーパーは例年 12 月上旬だが、遅いのでは？

(加治佐) 日本農経とアジア農経は同じ窓口、同じスケジュールで進める

(齋藤) 日本語での報告をアジア農経での報告と見なすのか？

同じ会費を払って別の学会での報告とすると混乱が生じるのでは？

(伊藤) この問題はまだ十分詰められていない

業績評価上の問題は重要、今後企画委員会で詰めていきたい。

(鈴木) 例年の日本農経は12月にフルペーパー、その後座長選定

今年は12月にフルペーパーをみずに座長を選定予定

(東山) 例年1月に座長決め拡大企画委員会を実施→12月下旬に前倒し

(加治佐) 座長決めも含め1月12日には完了させたい

*以上について承認

4.3. 2025年度開催校の決定方法と課題(総務) 【報告・審議】 資料 4-3

開催候補、企画担当副会長が開催を打診

開催校負担軽減 オンラインでの予算事前徴収で参加費、懇親会費徴収についての受付作業集中問題を解決→継続して実施

諸会議は原則オンライン、弁当手配等省略可能

オンラインの場合は若手向けイベント等の実施(例:本年度のワークショップ)

25年度以降大会について: 関東(日大-明治)あたりが有力

7月の常務理事会で大学名を提示

*以上について承認

5. 国際担当報告(国際)

5.1. 国際関係引き継ぎ事項について 【報告】 資料 5

日韓学術交流協定(2年間に締結)

毎年シンポを開催する予定だったがコロナ禍で実施されず

言語は日本語 or 韓国語(通訳は開催側が用意する)

- ・・・毎年開催は負担大、緩和するよう次年度委員会で検討できないか
細則及び手続きについては今後検討

5.2. 国際委員会委員の選任について 【報告・審議】

現・前国際担当副会長、国際担当常務理事の4名は確定

追加メンバーについては4名で今後検討

6. その他

6.1. 各種委員会委員の選任とHPへの掲載について(総務) 【連絡】

各種委員会の選任は各担当副会長が決定、常務理事会は事後承認で可

HPへの掲載については事務局に副会長から送信(総務にCC)

(中谷) 英文誌査読(及び学会報告での座長)が断られるケースが増えつつある

(浅見) 今後検討

(東山) 龍谷大会でも議論、大会要旨は作成するのか?

(鈴木) 要旨冊子体は作成しない方向、要議事録確認
(岡司) 予算は冊子体を作らない方向で既に組んである

閉会

以上